



No. 20
平成24年7月2日
発行
多治見市教育研究所
URL: <http://www2.city.tajimi.gifu.jp/~kyoiku/x/>

本紙は多治見市教育研究所のホームページ上でもご覧いただけます。



特別支援教育を 学校経営重点の 一つに

多治見市教育長 村瀬登志夫

学校教育法の一部改正により、平成19年度から「特別支援教育」が始まりました。

その改正内容は、

- ①盲学校、聾学校、養護学校を障害種別を超えた特別支援学校に一本化
- ②特別支援学校においては、在籍児童生徒等の教育を行うほか、小中学校等に在籍する障がいのある児童生徒の教育について助言援助に努める旨を規定
- ③小中学校等においては、学習障害（LD）・注意欠陥多動性障害（ADHD）等を含む障がいのある児童生徒等に対して適切な教育を行うことを規定

というものです。

そして文部科学省は、特別支援教育の理念を、「発達障害を含め障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」としています。

さて、ここで私が問題に思うことは、この「特別支援教育」は、「障がいのある児童生徒…」と読み取れることです。すると、その子どもに障がいがあると判定されないうちは、この「特別支援教育」の範囲に入っていないこととなります。すなわち、「障がいのある子どもだけの教育」と、範囲を狭く捉えてしまうことになりかねません。

ところで、平成24年度の市内小学校の特別支援学級在籍児童数は、114人で、人数割合では1.88%です。平成13年度と比べて人数では2.48倍となっています。

また中学校の特別支援学級在籍生徒数は33人で、人数割合は1.01%です。平成13年度と比べて人数では1.03倍です。

そして市内の2小学校には、言語通級が各1学級、発達通級が各2学級、設置されています。

また、通常学級における発達障害等の児童生徒数の割合は、平成14年度の文部科学省の全国調査では、6.3%となっています。これは質問紙により、学級担任等が答えた数値です。多治見市ではこうした調査をしていませんので、本年度には調査をする予定です。

私は、『図解よくわかるアスペルガー症候群』（広瀬宏之著 ナツメ社）を読んで、この特別支援教育の意味するところ、大切さが胸にストンと落ちた感じがしました。その内容を10ページにまとめたものを各校長先生にお渡ししてありますので、ぜひとも、校内での研修に使っていただければと思います。

そして障がいのあるなしにかかわらず、どの子どもにとっても分かりやすい授業、いわば、特別支援教育の視点に立った授業が求められます。それは、ユニバーサルデザインの授業、といわれています。毎時間の授業に、ぜひとも、特別支援教育の視点を明確に持ちたいものです。

つまるところ、「特別」ではない「支援教育」の推進をすることです。それは「個別支援教育」といってもいいでしょう。平成19年度から取り組んでいる「特別支援教育」は、障がいの有無にかかわらず、一人一人を大切に、「一人一人が自己充実感をもつ指導」をすることなのです。

子どもの健康・体力づくりたじみプランについて

本年度より「子どもの健康・体力づくりたじみプラン」がスタートします。このプランは、『運動が「好き」「楽しい」「得意」になる教育の推進』をめざして実施されます。平成23年度より、「子どもの体力向上推進委員会」を立ち上げ、準備をしてきました。

このプランの柱は大きく3つあります。「調査」「実践」「連携」の3つです。

「調査」では、体力テスト等を実施し、分析を行います。「実践」では、乳幼児期、小学生期、中学生期の発達段階に合わせた取組を行います。特に、運動習慣の影響が大きい幼児期・小学生期に多くの取組を予定しています。

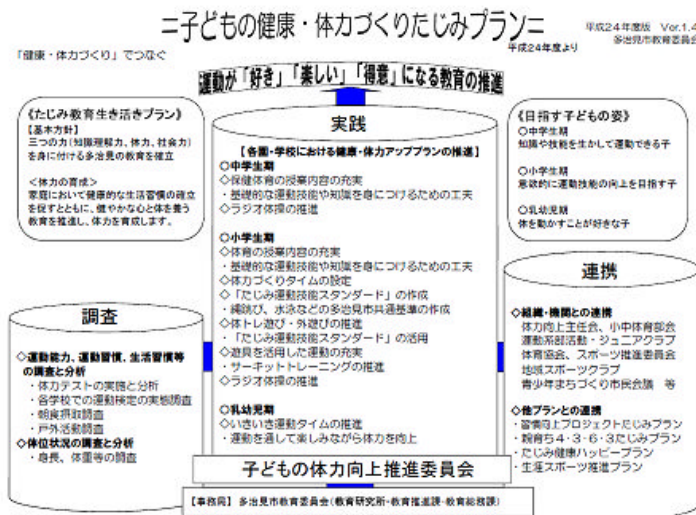
「連携」では他組織・機関との連携や他プランとの連携、保護者との連携を取りながらプランを進めることを計画しています。

昨年度は準備期間でしたが、実態調査のために公立幼稚園・保育園、小・中学校で体力テストを実施しました。その結果、多治見市の子どもたちの体力低下の実態が明確になりました。小学校においては体力テストのほとんどの種目において全国平均値を下回る結果

となりました。また、中学校においては、男子は全国平均値を上回る種目も増えていますが、女子においては、ほとんどの種目で全国平均値を下回る結果となりました。そこで、各幼稚園・保育園、小・中学校で子どもたちの実態を考慮した「健康・体力アッププラン」を立て、各園・学校で健康・体力アップの取組を始めたところです。

また、プランをスタートしたことを広く保護者の方に知って頂くために公立幼稚園・保育園、小・中学校の保護者向けにリーフレットを配布しました。さらに、この取組を多くの方に知って頂くために、健康・体力に関わる機関にも配布する予定です。この広報活動は、健康・体力アップに関する情報誌を発行することでさらに、保護者の方の関心を高めるものにしていこうと考えています。

将来の多治見市を支える子どもたちが健康で過ごすことができるように、このプランを進めていきます。ご協力よろしくお願ひします。



子どもの健康・体力づくりたじみプラン構想図とリーフレット

食育についての報告

児童が生涯にわたりよりよい生活を送るための食に関する指導をめざして

多治見市立昭和小学校 栄養教諭 松原 恵子

各学校では「市の方針と重点」および学校教育目標、学校における食に関する課題を受けて、食に関する全体計画を立てています。計画をもとに、給食時間や学級活動及び教科における食に関する指導について、学校ごとに特色ある実践が行われています。

栄養教諭・学校栄養職員部会では、安心しておいしく食べられる学校給食作りと、食に関する指導の充実を目指して取り組んでいます。食に関する課題について、先生方と連携して指導をすることで、より良い食生活を送ろうとする児童生徒の意識が高まるということを実感しているところです。その結果を報告したいと思います。

<昭和小学校における食に関する指導の実践>

昭和小学校では、児童が食について興味関心をもち、実践力を身に付けることを願い、食に関する指導を行っています。

(1)教科で学んだことを給食時間に生かす指導

教科で学んだ知識を確かなものとして、児童の実践意欲を高めることを願い、教科に関連した食に関する内容を年間指導計画に位置付けて、食に関する指導の時間や給食時間に指導します。

(2)食に関する指導の時間

二ヶ月に1回、スキルアップの時間に食に関する指導の時間を学級活動として位置付けています。

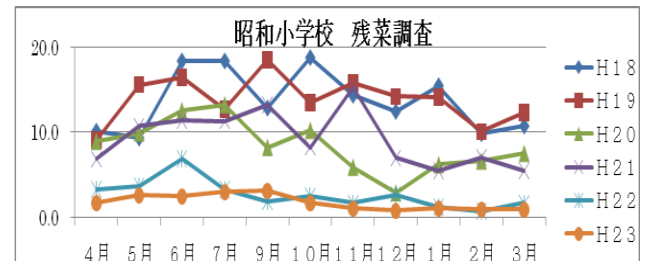
下図はH24年度の内容（ ）内は関連のある教科

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4・5月	給食の約束を守ろう	朝ごはんを食べよう	朝ごはんをしっかりと食べよう	体に良い朝ごはんを食べよう	調理をしよう(家庭科)	バランスの良い朝ごはん作り(家庭科)
6・7月	朝ごはんを食べよう	野菜と仲良くなる(生活科)	夏休みを元気にすごそう	多くの食品を食べよう	自分の朝ごはんを振り返ろう	よくかんで食べよう(理科)
9・10月	野菜の秘密を知ろう	米について知ろう	マナーを大切に食事	食べ残しを減らそう(社会)	魚について知ろう(社会)	栄養バランスがとれた食事(家庭科)
11・12月	体に良いおやつを食べよう	風邪をひかない体を作ろう	大豆について知ろう(国語)	おせち料理を知ろう	風邪をひかないよう気をつけよう	自分で料理を作ろう(家庭科)
1・2月	感謝して食べよう	感謝して食べよう	感謝して食べよう	岐阜県の特産物を知ろう(社会)	岐阜県の特産物を知ろう(社会)	食文化を大切にしよう
3月	調理員さんの仕事を知ろう	野菜の体の中での働きを知ろう	体を作る食べ物を食べよう	3つのはたらきの食べ物を食べよう	五大栄養素がそった朝食を食べよう(家庭科)	カルシウムの大切さを知ろう

(3)給食の時間の指導

給食を食べ始めると、給食委員が、今日の給食の一言話をします。それを受けて、学級担任が給食一言指導資料を参考に、児童の実態に応じた言葉で指導をします。また、栄養教諭が食堂訪問をした時には、資料に関連したクイズや写真などを使って指導をします。

(4)給食の残菜の変化



H18年度の給食の残菜は、市内の小学校では一番多く、平均で13.4%もありました。しかし、H20年11月から残菜の減少が著しくなりました。さらにH22年4月からは、給食時間を10分延長したこともあり、H23年度は平均で1.7%でした。

(5)児童の変容

児童が食べることに関心を感じたり、苦手な料理や食材に苦戦している友達を励ましたりする姿が見られるようになりました。また、正しく食器を並べることができる児童が、H22年度は75%でしたが、H23年度にはほぼ全員の児童が正しく並べることができるようになるなど、より良い食習慣が身に付いてきました。

<残菜と食に関する意識の調査結果>

市内小中学校の残菜平均は、H18年度には小学校8.2%、中学校8.7%でしたが、H23年度には、小学校3.2%、中学校2.7%と減少しました。また、市内4校の(中1)の意識調査からは次のような結果が出ました。残さず食べるようにしている(85%)、野菜を必ず食べるようにしている(68%)、牛乳や乳製品をとるようにしている(60%)、主食、主菜、副菜を整えるようにしている(57%)体に良い食生活をしようとする意識が、徐々に高まりはじめています。課題も多く、更に指導と調査を継続したいと考えています。

USB メモリーもセキュリティーに注意して

先生方は、普段データを持ち運ぶときに何を使われているのでしょうか。よく見かけるものは USB メモリーと呼ばれる記憶機器だと思います。最近では、安価ですが多くの情報を保存できるメモリーも、たくさん出てきました。便利になる一方、避けて通れないことが、情報セキュリティーです。小型ゆえに、どこかのパソコンにつけて忘れてしまうという経験はありませんか。

この紙面では、万が一のことを考えて、USB メモリーにかかわるセキュリティーを紹介します。安価な USB メモリーには、セキュリティー機能の弱いものも多く見られます。では、どのようなセキュリティーをつけておくとよいのでしょうか。

パスワードがかけられるもの

USB メモリーをパソコンに差し込むと、パスワードを求められるものがあります。三回の失敗で USB メモリーへアクセスができなくなったり、パスワードの代わりに

指紋認証装置がついていたりするものもあります。

暗号化できるもの

ファイルを保存するとき、そのまま保存するのではなく、暗号化しながら保存できるものがあります。暗号化をしていないと USB メモリーの黒い部分を抜き取られても、中のデータは見ることはできません。

ウイルスチェックできるもの

ファイルを保存するとき自動的にウイルスチェックしてくれるものがあります。特にネット上からのデータを保存する場合には、こうした機能があることでウイルス感染を防ぐことができます。

ただし、こうしたセキュリティー機能のついた USB は、高価です。買い換えの際に、参考にしてください。また、個人情報の取り扱いについては「情報管理台帳」への記載、管理職への報告など適切な手続きをとるようあわせてお願いします。

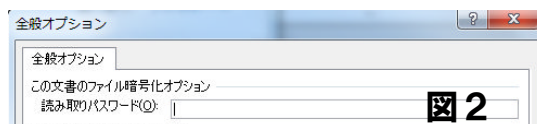
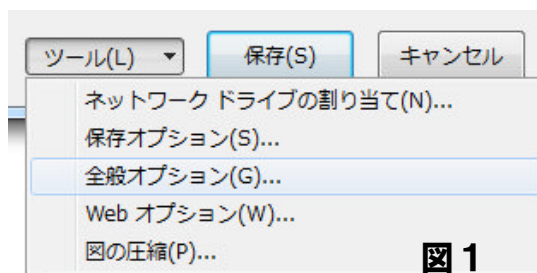


情報の扱い方について

先生方が扱う情報には、様々なものがあります。校務用のパソコンも整備され、扱う情報が、さらにデジタル化されてきました。その扱いには十分な配慮が必要となります。次の点に注意しながら、適切に情報を活用してください。

情報にパスワードをかける

校務用パソコンには WORD・EXCEL・一太郎といったソフトが入っています。これらのソフトは、ファイルにパスワードをかけることができます。例えば、WORD や EXCEL であれば、「名前をつけて保存」の後に出てくるウィンドウ下に「ツール」(図1)というボタンがあります。クリック後「全般オプション」「パスワードの設定」(図2)でセキュリティーを高めることができます。



一太郎では、「名前をつけて保存」の後、左下に出る「詳細」をクリックすることで、パスワード設定画面が出てきます。

情報に対するセキュリティー意識を高め、いくためにも、ぜひ御活用ください。

中部大学と連携して春の『おもしろ実験講座』を行いました

本年度も中部大学と連携して「おもしろ実験講座」を行いました。この講座は、春・夏・秋・冬の計四回行われます。今回は、春の講座について紹介します。

【速く走るためのコツ講座】

6月2日（土）に中部大学において、「ジュニア体験教室～めざせ自己ベスト！速く走るためのコツを知ろう！～」を中部大学との連携で行いました。今回の講座は、速く走るために以下のようなシリーズで行いました。

- 第1回 自分の実力を知る（6月2日）
- 第2回 歩幅を広げる練習（6月9日）
- 第3回 走り出しを早くする
練習（6月16日）
- 第4回 総合的な練習（6月23日）

第1回の参加者は親子合わせて40名。お父さんの参加も多く、休日講座のよさを感じました。



【歩幅を広げる練習】

今回は、西垣景太先生（中部大学助教）の指導のもと「かけっこが苦手な小学生を対象として、少しでも速く走れる方法を楽しみながら習得する」という講座を行いました。

まず始めに西垣先生からシリーズ全体の概要説明を聞いた後、歩幅を広げたり、腰をかがめたりなどいろいろな歩き方を体験しました。その後、一人一人50m走のタイムをとり、何秒記録を縮めたいかを決めました。毎回一人一人の走り方をVTR撮影し、どんなフォームで走るといいかを個別にアドバイスしてもらえました。最終日には、4回の講座を通して一番いい記録を

記録賞にして一人一人に手渡してもらえました。本格的なトレーニングを受けて満足そうな子ども達の表情がとても印象的でした。



【フォームのアドバイスを受ける】

【科学工作”揺らす”講座】

「科学工作講座」は、全3回開催されます。3回を通した共通のテーマは「揺らす」です。地球が揺れる地震、建物の耐震性など、最近、テレビをはじめとする各種メディアで話題になっています。また、揺らせる事を積極的に使った「モノ」も作られています。今回の講座では、揺れる仕組みを利用した器械製作、揺れるとどうなるかを理解する実験を通して、「揺れ」を考えるシリーズとなっています。

先日行われた第1回目では、岡島茂樹先生（中部大学教授）による、揺れやすいもの、揺れにくいものを考える講座が行われました。参加した子どもたちは、学生さんのサポートを受けながら、揺れる構造を一生懸命考えていました。工作を通して、「揺れ」を身近に感じることができる講座となりました。

今後も磁石とバネを使った「揺れ警報器」や膜の揺れを利用した「スピーカー」、音の振動を利用した



【揺れを体感できる科学工作】

「超音波モーター」の製作を通して、「揺れ」の勉強を楽しく進めていきます。

第1回子どもの読書活動推進委員会

平成22年度に策定された「子どもの読書活動推進計画」の進捗状況を確認し評価する会議が開かれました。この会の参加者は、小中学校の代表だけでなく、校長会、幼稚園・保育園、児童館、図書館、公民館、保健センターの各代表者にも参加していただいています。それぞれの立場から、子どもたちの読書活動がより充実したものになるよう、意見交換を行いました。今年度は「読みきり図書」に焦点をあて、乳幼児、幼保から小中学校につながる読書の在り方について検討を行っています。

<子どもの読書活動推進計画>

推進計画には、「目標①：読書を楽しむ」「目標②：読書から学ぶ」という2つの目標があります。目標①には、本との出会いづくり、読書を楽しむ習慣づくりを、目標②には、本から学ぶ力づくり、自分の考え

を表現する機会づくりを推進する基本方針がそれぞれ定められています。

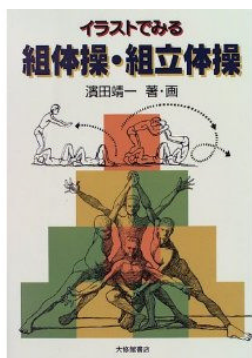
なお、指標として「多治見市読みきり図書」の「読みきり賞」の受賞者を、小学校で100%、中学校で50%を目指しています。H23年度は小学校で90.4%、中学校で10.1%の児童生徒が読みきり賞を受賞しています。

<各機関との連携>

子どもの読書を支える各機関の代表者が集まる会議だからこそ、その連携にも力を入れています。今年度は、多治見市図書館と連携をした教師塾セミナー(学校と図書館との連携の在り方講座)・児童生徒向け得意セミナー(親子読みきかせ講座)も行います。それぞれの講座を通して、子どもたちが読書を楽しみ、読書から学ぶ環境づくりを進めていきたいと考えています。

研究所にある様々な書籍を紹介します

研究所の棚にはたくさんの教育書があります。教科指導、学級経営をはじめ、先生方の実践をサポートしてくれる書籍がそろえてあります。



例えば「イラストでみる組体操・組立体操」では、技の組み方だけでなく、運動方法や注意事項、そして、運動効果も載せら

れています。技の内容が毎年変わらないと感じていたり、どんな運動効果があるのか分からなかったりする先生は一読の価値があります。

学級づくりにおいても各学年に応じた「学級づくりのポイント」という本もありま

す。この本では、各月にどのような活動を仕組むと効果的なのかを、学校行事や季節に合わせて紹介しています。

また、昨年度ご応募頂いた「教育実践論文」も保管してあります。概要については、教育たじみや実践論文抄にも載せてあります。しかし、執筆された先生がデータを詳細に分析された資料などは、紙面の関係上ありません。こうした資料編が研究所には保管されています。本論とあわせて資料編を読んでもらえば、教育実践研究の進め方、分析方法についても参考になるかと思えます。

今後、ご自身の授業実践をさらに向上させていく一つの手立てとして、研究所にある書籍をご活用ください。貸し出しについては、研究所の貸し出し簿に記入して頂ければ、可能となります。